

中小企業景況調査報告書

令和5年10～12月期 実績

令和6年1～3月期 見通し

始良市商工会

(令和6年1月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好 調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不 振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	--	---	---	--

1. 調査対象期間 令和5年10～12月期を対象とし、調査時点は令和5年12月1日とした。
令和6年1～3月期は予測値となる。
2. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会 始良市商工会
4. 回答企業 対象企業 30企業（※始良市30企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

県内産業別業況DI

		製 造 業		建 設 業		小 売 業		サービス業	
対前年 同月比	4年 10月～12月期		▲11.4		▲3.3		▲23.7		▲14.3
	5年 1月～3月期		▲7.0		▲16.7		▲25.9		▲24.7
	5年 4月～6月期		▲2.3		6.7		▲5.2		3.9
	5年 7月～9月期		▲9.3		6.7		▲25.9		▲6.7
	5年 10月～12月期		▲4.6		23.3		▲19.3		▲4.1
	来期見通し(1～3月期)		▲4.5		3.3		▲21.0		▲8.1

総 合（業況）

前年同期（令和4年10月～12月期）と比較した今期（令和5年10月～12月期）の業況は、製造業▲4.6（前年同期比6.8ポイント改善）、建設業23.3（前年同期比26.6ポイント改善）、小売業▲19.3（前年同期比4.4ポイント改善）、サービス業▲4.1（前年同期比10.2ポイント改善）となった。

今期については、前年同期と比較すると、コロナ禍前の秋のイベントも復活し、鹿児島県としては国体もあり、全ての業種において改善となった。特に建設業においては、材料価格の上昇等により完成工事額は、前年同期と比較して23.4ポイント改善し、大幅に工事額が上がっていることが伺える。

また前期（令和5年7月～9月期）と比較すると、製造業4.7ポイント、建設業16.6ポイント、小売業6.6ポイント、サービス業2.6ポイント改善となったものの、価格転嫁できた企業にとっては、需要の停滞や大型店（他店）等のへ流出が経営の問題となっている。

なお、来期（令和6年1月～3月期）の見通し（D I）は、今期と比較すると、製造業0.1ポイント改善・建設業20.0ポイント悪化、小売業1.7ポイント悪化、サービス業は4.0ポイント悪化の見通しとなり令和6年1月からの電子帳簿保存法の改正による対応など経費増額や事務負担が懸念される。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
4年 10月～12月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
5年 1月～3月期		14.3		▲14.3		▲14.3		▲14.3
5年 4月～6月期		42.9		28.6		0.0		14.3
5年 7月～9月期		▲14.3		14.3		28.6		28.6
5年 10月～12月期		14.3		28.6		28.6		14.3
来期見通し(1～3月期)		▲14.3		14.3		0.0		0.0

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・前年と比較し、原材料の一括購入に切り替え原価を下げたことや全商品の値上げを行い販売先の損失がなかったことにより、業況が少し持ち直してきたと思われる。
- ・原材料の納期がまだ通常よりも長い状況にある。受注から納品までに納期が長くなっている状況が続いている。一方新規受注は少しずつ回復してきている。

＜経営上の問題点＞

- ・原材料の不足、原材料価格の上昇が上位を占め、従業員の確保難、製品単価の上昇難に苦慮している企業も多い。

【建設業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
4年 10月～12月期		▲57.1		▲71.4		▲28.6		▲42.9
5年 1月～3月期		▲28.6		▲57.1		▲14.3		▲57.1
5年 4月～6月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
5年 7月～9月期		▲71.4		▲28.6		▲14.3		▲28.6
5年 10月～12月期		▲14.3		0.0		▲14.3		▲14.3
来期見通し(1～3月期)		▲14.3		▲42.9		▲28.6		▲14.3

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・原材料価格が上昇し、お客様が見積金額を抑えたり、材料入手が遅れ工期が伸びたりと経営環境が激変するなかではあるが、引き合いは少しずつ増えているので、来期もこのままで行けるとする一方、業界全体で慢性的な人材不足のため、下請けに仕事を回すのも難しいと感じる事業所もある。

＜経営上の問題点＞

- ・原材料価格の上昇、従業員確保難に加え、下請け単価の上昇等も顕著となっている。取引条件の悪化、人件費の増加等、利益が出にくい状態になってきている懸念があるとしている企業もある。

【小売業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(3)，衣服(1)，各種商品(1)，その他(2)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
4 年 10 月～ 12 月期		▲62.5		▲75.0		▲37.5		▲50.0
5 年 1 月～ 3 月期		▲37.5		▲37.5		▲37.5		▲50.0
5 年 4 月～ 6 月期		▲37.5		▲37.5		▲25.0		▲25.0
5 年 7 月～ 9 月期		▲100.0		▲87.5		▲37.5		▲62.5
5 年 10 月～ 12 月期		▲50.0		▲37.5		▲25.0		▲37.5
来期見通し(1～3 月期)		▲25.0		▲37.5		▲25.0		▲37.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・多様化する消費者ニーズへの対応が出来ていない。

<経営上の問題点>

- ・消費者ニーズの変化への対応を問題としている企業が多く、同時に仕入単価の上昇に苦慮している事業所も多い。

【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)，飲食店 (2)，その他(1)

	売 上 額		採 算		資金繰り		業 況	
4 年 10 月～ 12 月期		▲12.5		▲25.0		▲12.5		12.5
5 年 1 月～ 3 月期		▲12.5		▲25.0		▲25.0		▲12.5
5 年 4 月～ 6 月期		▲25.0		0.0		12.5		25.0
5 年 7 月～ 9 月期		▲50.0		▲12.5		▲12.5		▲12.5
5 年 10 月～ 12 月期		25.0		25.0		0.0		25.0
来期見通し(1～3 月期)		37.5		12.5		25.0		25.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・前期から今期にかけて設備投資したものが稼働し売上の底上げをしてはいるが、来店客数は、コロナ前の水準まで戻っていない。
- ・少しずつ明るい兆しが見えてきているようであるが、まだまだ足りていない状況。新メニューによるイノベーションが必要だが、なかなか難しい問題である。

<経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、人件費の増加、販売単価の上昇難、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業が多い。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに回復している。観光は、緩やかに回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、弱めの動きとなっている。

企業部門の動向を短観（12月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）でみると、設備投資は、増加している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額と家電販売額は、前年を下回った。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数は、前年を上回って推移している。主要観光施設入場者数は、前年を下回った。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、食料品、電子部品・デバイスを中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、低下した。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、前月並みとなった。

企業倒産件数は、前年を上回った。